

「令和3年度 配慮を必要とする子どもの保育研修会」報告書

- 【期 日】 令和3年度10月21日(木)
- 【会 場】 ロイヤルチェスター佐賀
- 【主 催】 佐賀県保育会
- 【参加者数】 94名(集合18名・オンライン76名)
- 【内 容】 研修1 12:30~16:30

「個別の配慮を必要とする子どもと保護者への対応」

講師：鬼塚 良太郎 氏(九州龍谷短期大学 保育学科 教授)



「個別の配慮を必要とする子どもと保護者への対応」

講師：鬼塚 良太郎 氏(九州龍谷短期大学 保育学科 教授)



◆支援する際の基本的な考え方

- ・支援の最初の目的はできるようになること(成功体験を多くつくる)で、最終の目的は自分でできるようになること。最初は必要な支援を加え、子どもの成長・発達に合わせて支援を減らしていくことが必要である。
- ・アセスメントができれば手立てはでてくる。子どもの能力・発達段階をアセスメントして、課題遂行する上で不十分な部分に対し支援をする。
- ・子どもの気持ち(思い)を大切にする。

◆自閉症スペクトラム症

*診断基準

A：社会的コミュニケーションと社会的相互作用の持続する障害

*「心の理論」の欠如

- ・自己と他者とは異なる「心」を持つことを理解することが難しい。

*対人関係のトラブルへの対応

- ・「〇〇してはいけません」と行動の善し悪しを伝える。
- ・パーソナルスペースがわかるように、子どもの現状の力で理解できる基準をつくり行動の選択ができるようにすることが必要である。

B：限定され、何度も繰り返される行動や興味、活動

◎こだわりの考え方と対応

- ・周囲への影響や危険度等を考慮しながら許容できるものは許容していく。
- ・こだわりは「止める」ではなく「変える」周囲の人が受け入れられるものに変化させる。
- ・こだわりは短所→融通が利かない。

例えば…接客業は難しい。

長所→決められたことをしっかりやりぬく。

例えば…同じ作業を繰り返す行いう仕事では抜群の仕事裁きである。

◆注意欠如・多動症

◎不注意の考え方と対応

- (1)声かけをこまめにする。(こまめに声かけをしてすべきことへ注意を向ける)
- (2)声かけは具体的に。(1つ1つを具体的に短く伝える)
- (3)「To Do」を事前に、最中に確認できるようにする。
(次に何をすればよいのか、今何をすればよいのかを本人が確認できる環境を作っておく)

◎ことばの育て方

- ①モデルを示す→独り言を意識して言う。
- ②子どもの気持ちを代弁する→その時子どもが感じているであろう気持ち(感情や欲求など)を推測し、子どもが言うセリフだけを言う。
- ③「伝えたい」という思いを育てる→発語は伝えたい相手がいることで育つ。

◎自己肯定感の低い子どもへの対応

- ・上手、下手という結果ではなく頑張ったところ、努力したところを誉める。
- ・苦手なこと困難する場面は一人で乗り切らせるのではなく一緒に乗り越えるようにする。
- ・苦手を得意ではなく得意をもっと得意にする。

◎生活習慣の把握は重要である。特に睡眠に関しては病院受診をし薬での治療をすることもある。

◎気になる子の環境要因の中の家庭環境には気をつけることが大事である。

虐待も多くある。

◆保護者の心理

(保護者はどんな状態?)

- ・子どもへのかかわりが消極的→子育てのストレス
- ・周囲からの目→しつけが悪いと思われたくない。周囲に迷惑をかけている。
- ・「障害」への抵抗感や不安感の高さ→障害や発達の遅れと思いたくない。

(保護者の思い)

- ・先生の「大丈夫ですよ」は本当?→どう大丈夫かを伝えることが大事である。
子ども理解を深めるチャンスである。

(保護者に伝えるときの注意点)

- ・何のために何を保護者に伝えるのかを明確にする。
- ・子どもの様子を伝えているときは、子どもを主語にして話す。
- ・保護者のおかれている状況を考える。正論を言うと苦しむ保護者がいる。

- ・最初はいろんなことに頑張っていたが、子どもに特性があって上手くいかず親としての失敗体験が積み重なった結果消極的になるので、今の目の前の保護者の状況でできる事、もしくはすでに頑張っている事、当たり前なことでもそれは凄いことと伝える。
- ・子どもに対し厳しい保護者の裏側には不安がある。方法が違っていても否定せず、これから先子どもに適切に関わってもらふ事が目的である。一緒に考える。

◆保護者へ子どもの様子を伝える際のポイント

- ①子どもの特性、状態の詳細な把握
- ②支援の方針、手立てを考案
- ③支援の実践
- ④子どもの状態像の変化 ← この段階で伝えるのが良い。

《 感 想 》

いろいろな配慮を必要とする子どもたちへの対応の仕方、関わり方を事例をもとに話されとてもわかりやすく、基本的な支援の考え方の「最初は足し算、そのあと引き算」が心に残った。子どもの目に見える行動ではなく背景にあるものを把握し、アセスメントする力をつけ子どもの理解と適切な対応を実行していきたいと思う。また保護者の状態を把握、理解し気持ちに寄り添うことを忘れずに職員間で共通理解し関わっていききたいと思う。

(文責： 大島保育園 渡辺 千代子)